

# 実践事例

学校名 \_\_\_\_\_

## 1 実践の概要

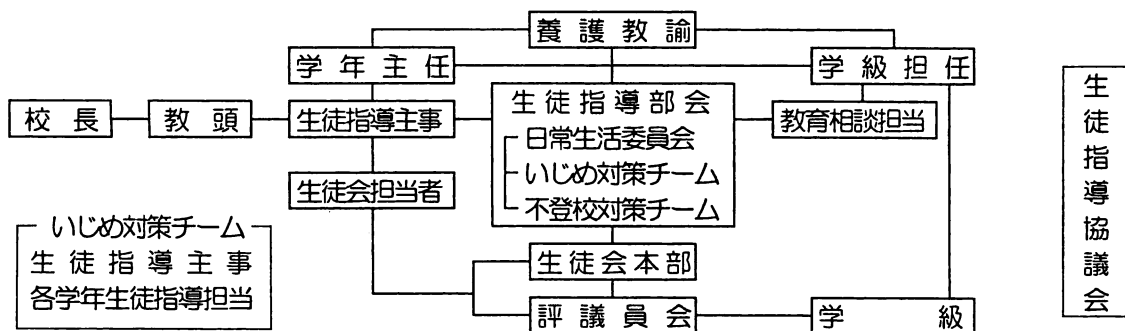
### (1) 取組みのねらい

- ① 安心して学校生活を送るために、教師と生徒が一体となって、学校から「いじめ」をなくすことを目的とする。
- ② 「いじめ」と思われる事案の早期発見のための方策、及び指導の方向性と事後の対策を検討する。

### (2) 取組みの内容

#### ① いじめ対策委員会の設置

##### i 組織



##### ii 方針

- ア 「いじめ」を見逃さない体制を充実させるため、学年会・生徒指導部会の運営の充実を図る。
- イ 「いじめ」早期発見のためのアンケート調査を定期的（原則として月に1回）に実施するとともに、早期発見に向けた取り組みを検討する。
- ウ 「いじめ」があった場合には、その事実把握に努め、解決に向けての基本方針を確立し、指導のあり方の共通理解を図る。
- エ 解決後（指導後）の生徒の変容について、定期的に確認の場を設け、再発防止に努める。

## 2 実践の成果（態度・心情面やいじめの解決など）

### (1) 定期的な「いじめアンケート」について

「いじめアンケート」をほぼ毎月実施していることにより、生徒間のトラブルなどを軽微な段階で知ることができるようになってきている。該当生徒だけでなく、周囲の生徒からの情報が寄せられる仕組みによって、いじめの発生そのものを抑制することにつながっているようである。今年度に入ってから現在までで2回のアンケートを実施しているが、いじめについての報告はない。

### (2) 生徒とともに進める「いじめ対策」について

教師だけの力では、いじめの早期発見には限界がある。そのため本校では、生徒会を中心に各学級の委員長である評議員をメンバーに加え「いじめ防止会議」を開催した。メンバーには「いじめは絶対にダメ！」というメッセージを発信する役割とともに、早期発見のための役割を担わせている。会議では、生徒ならではの視点に基づく意見もあり、指導に当たっての参考になることも多かった。

#### ※「いじめ防止会議」での議題

- いじめはどうすれば予防できるか。
- いじめを早期発見するためにはどうすればよいか。

### 3 取組みの評価（対応についての評価）

実践は始まったばかりで、まだ評価の段階にはない。ただ、①「いじめは絶対にダメ！」という強いメッセージを発信すること、②いじめをなくすために教師と生徒が一体となって取り組んでゆくという毅然とした態度を示すこと、③いじめの被害にあった場合に、早い段階で相談できる仕組みがあるという安心感を与えること…の3点は現段階での成果としてあげることができる。

### 4 実践に関する資料（学習カード等）

#### いじめに関するアンケート

年 組 番 氏 名 ( )

これはテストではありません。

もし、今困っていることなどがあれば、先生たちも協力したいと考えています。

あなた自身のことについて素直な気持ちで記入してください。

回答は番号か文章で記入してください。

1 学校生活は楽しいですか？・・・・・・・・・・・・・・・・

ア とても楽しい イ 楽しい ウ 普通 エ 楽しくない オ とても楽しくない

2 自分に対するいじめを感じることはありますか？・・・・・・・・

(前回の調査2月初旬以降)

ア ある イ ない

3 2で「ある」と答えた人に質問します。具体的なことを記入してください。

いつ	
だれに	
どんなことをされた	

4 学校内のいじめについて知っていることがありますか。・・・・・・・・

(前回の調査2月初旬以降)

ア ある イ ない

5 4で「ある」と答えた人に質問します。具体的なことを記入してください。

いつ	
だれが	
だれに	
どんなことをしていた	

6 先生方に伝えたいことがあれば書いてください。